

普賢經五箇の大事

第一 普賢經の事 題号をば仏説觀普賢菩薩行法經と云云。

御義口伝に云はく、此の法華經は十界互具三千具足の法体なれば三千十界悉く普賢なり。法界一法として漏るゝ事無き普賢なり。妙法の十界蓮華の十界なれば、依正の二法悉く法華經なりと結び納められたれば、此の普賢經を結經とは云ふなり。然れば十界を妙法蓮華經と結び合はせたるなり。

第二 不斷煩惱 不離五欲 得淨諸根 滅除諸罪の事

御義口伝に云はく、此の文は煩惱即菩提・生死即涅槃を説かれたり。法華の行者は、貪欲は貪欲のまゝ、瞋恚は瞋恚のまゝ、愚癡は愚癡のまゝ、普賢菩薩の行法なりと心得べきなり云云。

第三 六念の事 念仏 念法 念僧 念戒 念施 念天なり。

御義口伝に云はく、念仏とは唯我一人の導師なり、念法とは滅後は題目の五字なり、念僧とは末法にては凡夫僧なり、念戒とは是名持戒なり、念施とは一切衆生に題目を授与するなり、念天とは諸天昼夜常為法故而衛護之の意なり。末法当今の行者の上なり。之を思ふべきなり云云。

第四 一切業障海 皆從妄想生 若欲懺悔者 端坐思實相 衆罪如霜露 慧日能消除の事

御義口伝に云はく、衆罪とは六根に於て業障降り下る事は霜露の如し。然りと雖も慧日を以て能く消除すと云へり。慧日とは末法当今日蓮所弘の南無妙法蓮華經なり。慧日は仏に約し法に約するなり。釈尊を慧日大聖尊と申すなり、法華經をば又如日天子能除諸闇と説かれたり、末法の導師をば如日月光明能除諸幽冥等と説かれたり。

第五 正法治国不邪枉人民の事

御義口伝に云はく、末法の正法とは南無妙法蓮華經なり。此の五字は一切衆生をたほらかす秘法なり。正法を天下一同に信仰せば此の国安穩ならん。されば玄義に云はく「若し此の法に依れば即ち天下泰平ならん」と。此の法とは法華經なり。法華經を信仰せば天下安全ならん事疑ひ有るべからず云云。

己上二百廿九箇大事